

【技術分類】 3-3-8 セントラル空調／ダクト工事／給排気口

【技術名称】 3-3-8-1 吹出口、吸込口

【技術内容】

吹出口や吸込口の取付けでは、振動により緩みや脱落のないようにダクトや壁面に確実に取り付けることが重要である。天井面に取付ける場合はダクトの接続工事を簡単にするために、ボックスを介したりフレキシブルダクトが用いられる。

メーカーにより各種の型式があるが代表的な型式について、以下に取付け上の留意事項を列挙する。

1. アネモ型、パン型 (図1の(1))

吹出口の風の流れ方向を配慮して整流板を取付ける。吹出ボックスとは3点以上で取付け、吹出口が脱落しないようにする。また、天井ボードにすきまが開かないようにする。ただし、ビスを締め過ぎて天井ボードを破損しないように注意する。

2. ユニバーサルレジスタ型 (図1の(2))

天井に取付ける場合は下から見えやすいので、内面をつや消しの黒で塗装する。壁面に取付ける時は天井面から150mm以上離し、誘引作用による天井面の汚れを防止する。

3. ラインデイフェューザ型 (図1の(3))

ブリーズライン型とも言う。フェースの額縁が小さいので天井ボードの開口は高い寸法精度とする。長手方向に連続して配置する場合は同一直線上に配置し、曲がらないように注意する。

4. ノズル型 (図1の(4))

ノズル型はダクトに差込んで接続するので、取付け位置に正確にネック出しをする。要所に吊りを設けて補強する。冷風吹出しの場合は吹出口に結露防止を行う。

【 図 】

図1 代表的な吹出口、吸込口の概要

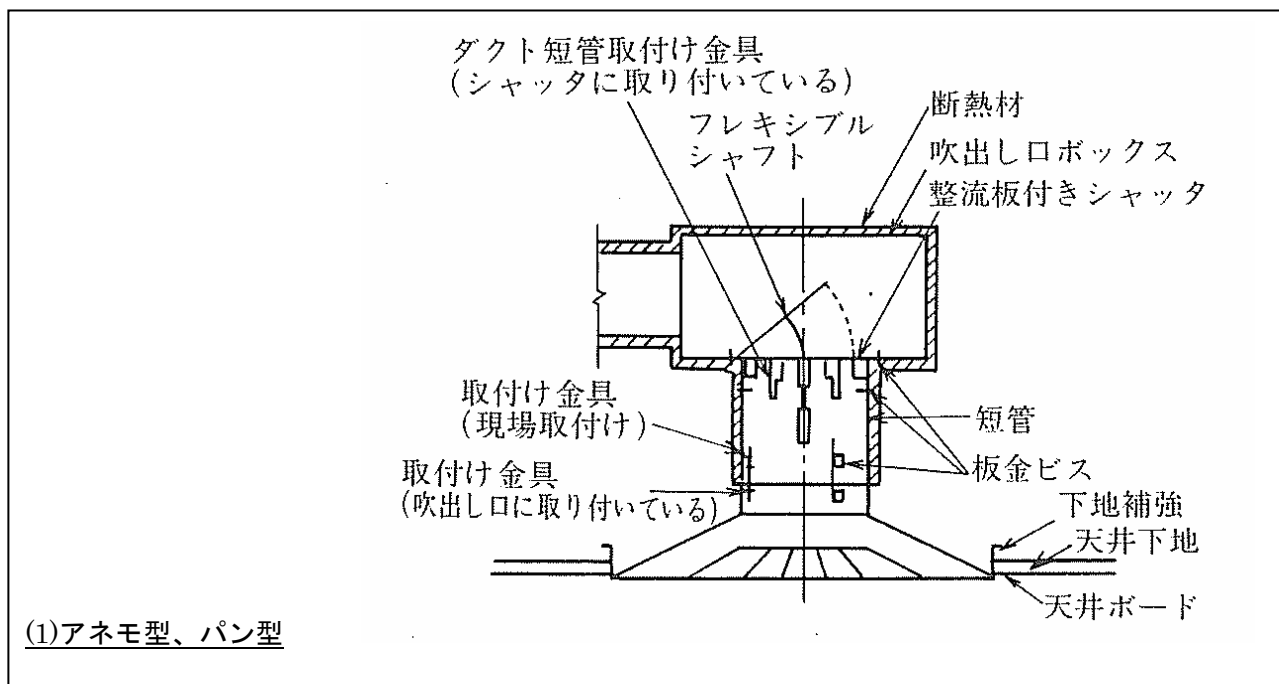
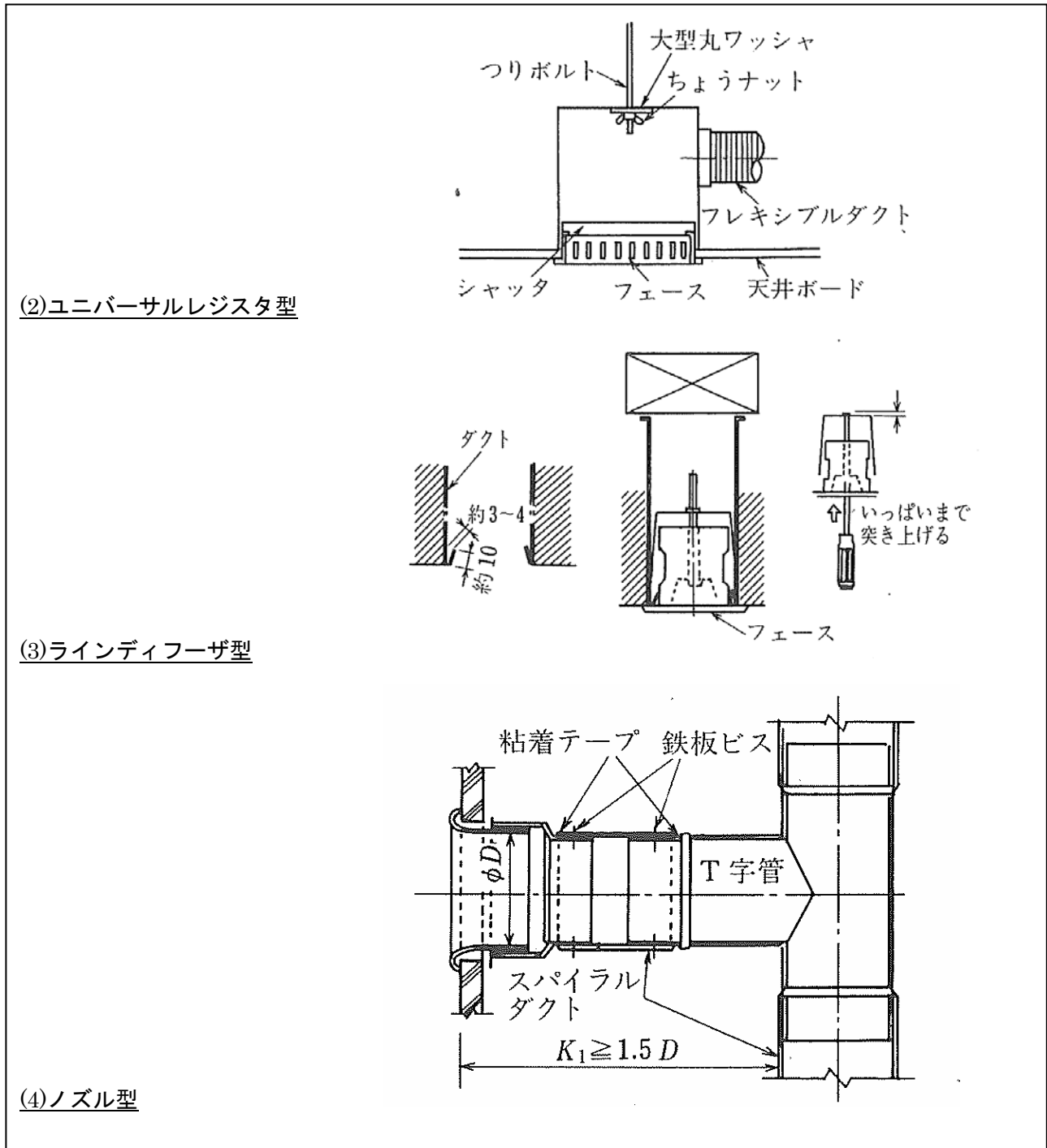


図1 代表的な吹出口、吸込口の概要 (続き)



出典：空気調和・衛生工学便覧 第13版 第5巻（材料・施工・維持管理篇）、2001年11月30日、  
社団法人空気調和・衛生工学会発行、421頁 表6・20 吹出し口・吸込み口の種類

【出典／参考資料】

- ・空気調和・衛生工学便覧 第13版 第5巻（材料・施工・維持管理篇）、2001年11月30日、社団法人空気調和・衛生工学会発行、420～421頁
- ・空気調和・給排水設備 施工標準 第4版、2004年3月1日、社団法人建築設備技術者協会発行、295～300頁

【技術分類】 3-3-8 セントラル空調／ダクト工事／給排気口

【技術名称】 3-3-8-2 ガラリ

【技術内容】

ガラリとは、換気ができるようにドアや外壁などに設けた通気口である。外壁の場合、通過風速は排気が4m/s程度以下、給気が3m/s程度以下が一般的である。

ガラリの設置に際しては、補修作業のし易さや雨水・風・積雪対策、防鳥・防鼠対策などを検討して設置位置を決める必要がある。防鳥、防鼠対策のバードスクリーンはSUS製で、開口は10~20mm程度がよい。1箇所のガラリに異なる系統の排気ダクトが入る場合は、排気チャンバーに仕切り板を取付ける。

ガラリの種類にはダクト接続型と単独型があり、製作には次の注意が必要である。

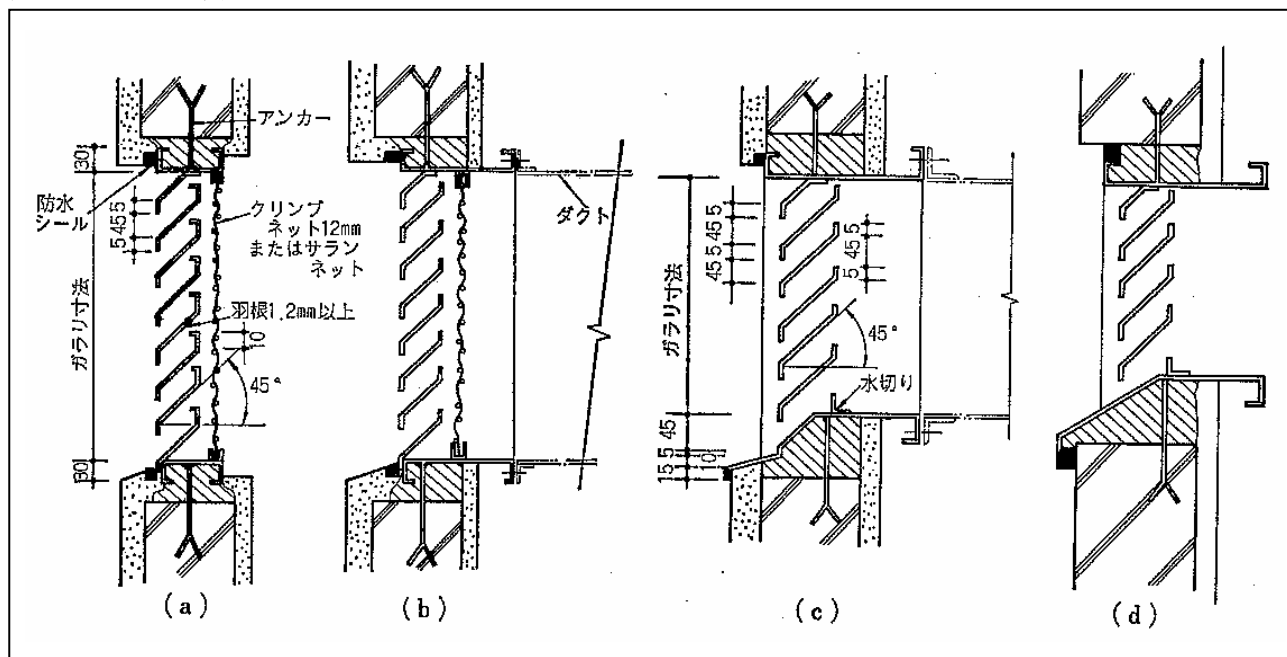
枠および羽根とも1.2mm以上の厚さの鉄板を使用する。羽根の角度は雨水の浸入防止のために45°下向きとし、たまった雨水が垂直に滴下するように、屋外側を5mm程度下向きに折り曲げる。また風雨が逆流した場合に雨滴がダクトまたは室内に浸入しないように、屋内側の羽根を同様に5mm程度上向きに折り曲げる。

なお、羽根が縦型で低圧損のガラリもある。

図1にガラリの例を示す。

【 図 】

図1 ガラリの例



出典：ワンポイント＝建築技術 空調設備のダクト施工、1979年7月10日、池本弘著、株式会社井上書院発行、55頁 図2-66 ガラリ

【出典／参考資料】

・ワンポイント＝建築技術 空調設備のダクト施工、1979年7月10日、池本弘著、株式会社井上書院発行、55-56頁